

くいしんぼうのはなこさん

いしいももこ 文
なかたにちよこ 絵

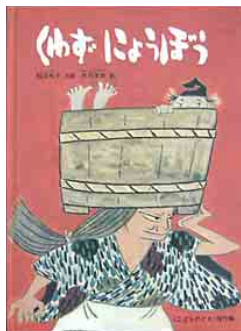


福音館書店 1965年 1000円

子牛のはなこは、わがままで、その上とてもくいしんぼうです。あるとき、山のようなおいもとかぼちゃを、独り占めして平らげたのはいいけれど、翌朝になると、はなこの体は、まるでアドバルーンのようにふくらんでしまい…。いばりんぼうのはなこにおこった出来事をユーモラスに描いた絵本。明るくおおらかな絵が、のどかな牧場の雰囲気醸し出しています。

くわずにようぼう

稲田和子 再話
赤羽末吉 画



福音館書店 1980年 800円

欲張りな男がめしを食わないという女房をもらいます。めしを食わないはずなのに蔵の米がごっそり減っているのに気づいた男が天井に隠れて見ていると、女房は実はおにばばで、にぎりめしを頭のてっぺんにある大きな口にどンドン投げ込んでいました。画面いっぱいに広がる、すごみのきいた絵が魅力です。菖蒲やよもぎの季節に合う絵本です。

げんきなマドレーヌ

ルドウィッヒ・ベームルマンス 作・画
瀬田貞二 訳



福音館書店 1972年 1300円

パリの寄宿舎に12人の女の子たちが先生と一緒に住んでいました。なかでも一番おちびさんの元気なマドレーヌが盲腸炎で入院します。お見舞いに来た女の子たちは見舞いの品やおなかの手術の傷がうらやましくてたまりません。子どもの気持ちをとらえた楽しい絵本です。絵は明るくしゃれていて、エッフェル塔などパリの名所が随所に描かれています。シリーズは「マドレーヌといぬ」「マドレーヌとジプシー」などがあります。